

ART KISS

Contemporary Art Museum, Kumamoto (on 12th, October, 2002)

LETTER

FOR KUMAMOTO

ART PEOPLE

2002.4.15 熊本市現代美術館発行

vol.
10

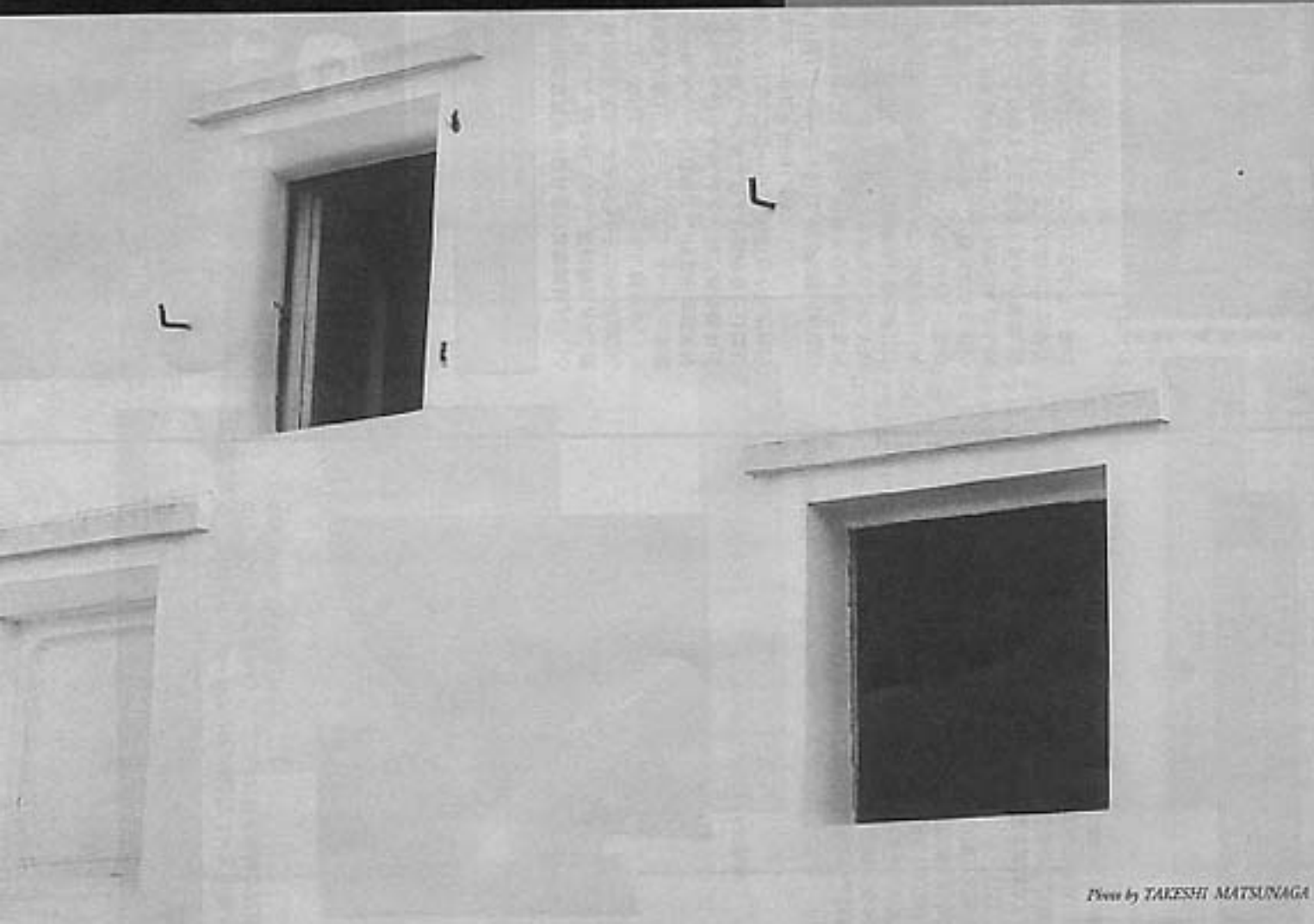


Photo by TAKESHI MATSUNAGA

WORLD NEWS

光州ビエンナーレ[3.29~6.29] Gwangju Biennale



夢演型の作品が目立った第4回光州ビエンナーレ

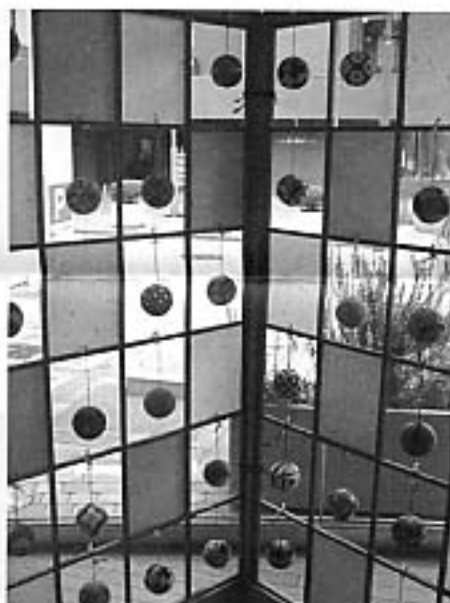
3月29日、韓国の光州市で第4回目の「光州ビエンナーレ」が開催しました。これは2年に1回開催されるビエンナーレ形式の、アジア最大の国際美術展で、韓国史上最悪の民衆弾圧ともいえる、1980年5月18日の光州事件を忘れないために、現代の美術を通して人間の自由や人権を検証し続けようと、1996年に始まったものです。毎回テーマが変わりますが、今回のテーマは「pause」、つまり、「ひとまず休もう」とでも訳したくなる逆説的なもので、そうした雰囲気の中、世界から集まった作品には多くの観客参加型の作品が目立ちました。

ART DE GYAN

上通郵便局プラザU

熊本市水道町3-37-1F ☎326-4123

- 「日芸美術学部写真学科第8回OB写真展」(1.30~2.5) 福田一司さん、穀本純二さん、奥村輝也さん、植田雅士さん、奥村隆志さんによるカラー三つ組の展示。穀本さんの《二江の夏》は、構図、色彩ともに鮮やか。
- 「美術教師3人展」(2.6~2.12)は、ルーテル学院高校教諭の橋本尚さん、石村佳晴さん、市立必由館高校教諭の田畑親士さんの3人展。ともに第二高美術科出身で、五大・美大を経て、昨年4月より教職をとりはじめた。作品はアクリル、コラージュ、油彩とそれぞれ分野を生かすが、大作にも期待したい。
- 「肥後祭り展」(2.13~2.19)は、熊本国際芸術館の肥後祭り講座受講者による展示。肥後祭りは県内各地に伝承していたものを、昭和49年に体系化したのが始まり。そのデザインは、「雨の葉」「連角」「春雨」「重ね菱」「コスモス」「椿」「帯」「風ぐるま」「重ね三角」「四国まり」「角花火」「三角づくし」「髪(のし)」の13柄になる。一番の特徴は、初段を詰めた芯に草木染した綿糸のみを用いるところにある。糸を銀糸を使わないのがいかにも熊本らしいですね、とは指導する佐藤優子さんの言葉。自然な風合いの糸の組み合わせと、まん丸のかたちがなんとも愛らしく心とむ。たくさんの方たちの手仕事のぬくもりが伝わってくる。(A・S)



肥後祭り展 展示風景

- 「つつじとからいもの里大博覧」(2.20~2.24)
- 「フラワーデザイン親子展」(2.25~3.5)

ギャラリーキムラ

熊本市水道町3-5(上通KビルBF) ☎327-0166

- 「平方研水小品展」(2.4~2.11)
- 「島野順子個展」(2.17~2.24)は、色面の構成に気を配った人物画が中心。
- 「2002 Work展」(2.25~3.3)は陶芸の富田えい子さん、ガラスを用いた作品の三好啓さん、アクセサリの和田鈴子さんの三人展。(Y・H)

アートスペース大宝堂

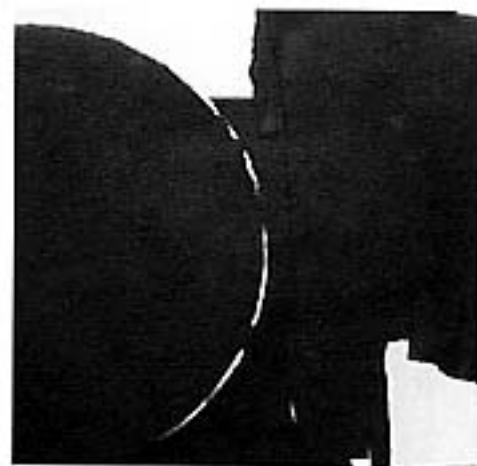
熊本市上通5-5 ☎354-2155

- 「第10回“安”グループ展」(1.30~2.4)
- 「熊日教室併画展」(2.6~2.11)講師は高中秋秋さん。
- 「やまびこ保育園絵画制作展」(2.13~2.18)40人あまりの保育園児の作品展。貼り絵などの平面表現から人形やお店の模型などの立体まで、カラフルで楽しい会場であった。(K・T)
- 「園芸「風」社中展」(2.20~2.25)丸山三千代さんが主宰する会の30人が、藤、輪、巻子など62点を展示。「流氷」をテーマに、人生や自然などを、自分で考えて作品づくりをしている。丸山さんは3×8尺の幅頭に、《かくや姫》を古墨で工夫された「にじみ」を生かした作品。料紙の色や表具もハイカラで、春らしいなごやかな会場であった。(S・K)
- 「日中友好春節書画展」(2.27~3.4)

ジェイ

熊本市大江本町6-9(林崎天神電停前) ☎372-8732

- 「内田勝弘イメージデッサン展」(2.1~2.9)黒と白のマスのせめぎあいと、エッジとなる曲線が緊張感を生み出している。(H・T)



「内田勝弘イメージデッサン展」内田勝弘さんの作品

- 「蘭と遊ぶ五人展」(2.11~2.20)平田抱山さんは《馬》を甲骨・金文等、古い文字で書いている。三嶋天鴻さんは兜の絵もさすがだが、俳句とよくあっている。岩本武士さんの《スイトビー》の絵とことばが楽しい。後藤補益さんの《面》は小品だがおもしろい。徳田翠雨さんの《足下》の書は、花箱とマッチしている。五人共個性があり、楽しい小品展である。(S・K)
- 「風景画展(No.1)」(2.21~2.28)荒金鉄雄さんによる水彩の風景画展。なにげない場所に、豊かな四季を感じとる荒金さんの視線が、そのまま横長の作品に写しとられ、私たちを新たな熊本の発見へと導いてくれる。(H・T)

ギャラリー喫茶去

熊本市千原町3-7 ☎359-0132

- 「ティーペア」展(2.13~2.18)

画廊喫茶南風堂

熊本市北千反燈町5-13電建ビル1F ☎343-9664

- 「RKK学苑[金曜]洋画教室展」(2.1~2.9)雨森三郎さん指導の19人のグループ展。野田幸さんの《アラブの老人》の皮膚、吉田保さんの《鮎》の身には、生きものの肉の弾力と脂肪のてりてりのマチエールが美しく表現されていた。
- 「第7回アート・サラダ・グループ展」(2.11~2.20)果物、風景等、具象画の展示。色彩に対するこだわりがみとれる。(H・T)
- 「秀妍会書展」(2.21~2.28)古賀碩苑さんに指導を受けながら、書を楽しもうというグループの10人が漢字、仮名、調和体などの作品を展示している。シルバ一展や熊日新人展をめざして学んでいるメンバーもあるという。願わくは、文字のくずしの基本を確認してから書を楽しんでほしい。(T・M)

ギャラリー萌

熊本市水前寺6-27-20 ☎383-7001

- 「能力開発センター美術展」(2.21~2.28)。水彩、クレヨンで描かれた絵画約20点の展示。真摯に対象を見つめる14人の気持ちが伝わってきた。中村幸弘さんの風景を描いた作品は繊細な色調に引き込まれる。佐野美智子さんの花の作品は大胆な色面構成と微妙な色遣いが美しい。(K・K)

スペースレインボー

熊本市新市街10-7(シャワー通り) ☎324-0387

- 「大野裕子個展」(2.6~2.10)穏やかな色彩感覚による作品が並んだ。
- 「夢と祥花のプロムナード展」(2.13~2.18)お話しも出来る楽しい展示。
- 「安井建二 陶展」(2.27~3.4)「精円」を全作品のテーマに置いている安井さんだが、安定した完成度。今回は、昔の様々な電気製品の部品をくみあわせたオブジェも展示し、その幅の広さを感じさせる。(H・T)



「安井建二 陶展」安井建二さんの作品

熊本県庁

熊本市水前寺6-18-1 ☎383-1111

- 「くまもとハートウィーク 障害者芸術展」(2.20~2.27)。刺繍、ビーズ、押し花、織物、チラシで織った千羽鶴、写真、書、絵手紙、陶芸、油彩、日本画、木工など、様々な素材による作品が並んだ。北島重夫さんの《赤ぼと》は紙におさまりきれない対象を、紙を縫ぎ足して描いた迫力ある作品になった。そのほか、足で刺繍して仕上げた大作《七福笑い》(水成マサ子さん)や、すばらしい色のハーモニーを見つけた妻慶一郎さんの《さそり織り》、点字プリント用紙の切り取られるリイド部分をリサイクルしたという安枝六郎さんの《雷道橋、視察、本立て、鳥かご》など、見ごたえのある展示だった。(K・K)

喫茶りんどう

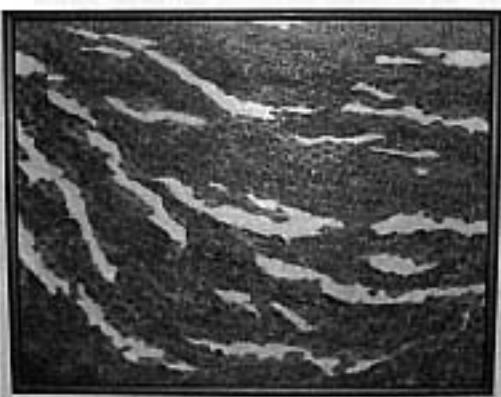
熊本市水前寺6-18-1熊本県庁本館1F ☎383-1111(内線2525)

- 「くまむた荘展」(2.1~2.28)くまむた荘は城南町にある身体障害者療養施設。この展覧会は9名による写真、絵画作品などの展示。石田澄男さんの《椿》など、日常を丁寧に切り取った作品が印象的。(K・K)

画廊喫茶三点鐘

熊本市千原町3-8有明ビル ☎326-3040

- 「第18回富田精治ペン画展」(2.1~2.8)県下に今も残る石橋を精密なペン画で描いた18点。富田さんがペン画をはじめたきっかけは、定年後に備え何かはじめなくてはと思った際に、かつて夢中になった「少年倶楽部」の笹島勝一の挿絵を思い出したためだという。長年、茶の文化研究を行うなど多彩に活躍される一方で能や巨樹、羅漢、寺の庭園などをテーマにペン画に取り組んできたとのこと。「生きていたらまた会いましょう」の挨拶に透視な人情が窺える。
- 「さそり織り展」(2.9~2.12)人吉在住の五嶋奈穂・律子さん母娘のポーチやショール等の小物やコートなど。
- 「田山幸子ふくろう展-2002年招福-」(2.13~2.20)「森の賢者」「幸福のシンボル」など、私たちの親しみ深いふくろう。様々な表情の愛嬌たっぷりなふくろうが陶板、水彩、パステルで描かれた。
- 「高毛穂一遺作展」(2.21~2.28)タイトルのない作品が、高毛穂一さんの早すぎる死を物語る。写真では優しいまなざしが対象に注がれているが、それと相反するかのような抽象をテーマとした油彩は、グラフィカルで現代的なセンスが感じられる。温かさとクールさを同時に花開かせたところに、作者の才が感じられた。(A・S)



「高毛穂一遺作展」高毛穂一さんの作品

アートギャラリー・コレクションOMO(オモ)

熊本市上通町4-14-3F ☎356-4721

- 「熊本の作家展 part III」(1.19~2.24) 秀島由己男さん、浜田知明さん、谷船敬二さん、林浩さん、東弘治さん、坂口登さんら、熊本出身で現代に活躍する作家たちの作品展。(K-K)

ギャラリーカフェ プリランテ

熊本市板木2-14-5 ☎369-0095

- 「かずら展」(2.1~2.14) 井野早知子さんによるかずらを素材にした造形展。バスケット、オーナメント、リースなど、複雑に絡み合う形を全体とディテールのバランスよく仕上げた。添えられた生花、ミニグリーンが心地よい空気を醸す。
- 「押し花展」(2.15~2.28) 富田恵さん、大川恵子さん、広瀬夕マエさん、井野千恵美さんによる押し花の展覧会。額縁に納められた押し花はシックな雰囲気。暖炉のある展示空間で、落ち着いた、贅沢なひとときを演出していた。(K-K)

熊本伝統工芸館

熊本市千歳城町3-35 ☎324-4930

- 「宮田伸一の手仕事家具展」(2.5~2.11) 宮崎県綾町在住の宮田さん。ノミ跡を生かした重厚なつくりのダイニングセットやロッキングチェアなど。ケヤキの原木を生かしながら、漆やオイルなどの仕上げにこだわったつくり。
- 「甲斐武一木の仕事展」(2.5~2.11) 河内町兵に工房を構える甲斐さんの卓や皿、酒器など。松や桧など多彩な素材を使いこなした端正な仕事。木のゆるやかな反りを生かした額が興味深い。
- 「鮎(さき)がけ陶・染花展」(2.5~2.11) 熊本市御嶺で染花教室を開く清水ひさ子さんと鹿児島県伊佐郡の陶芸家高松宜生さんの2人展。草木染の布で作る花と桜やどくだみの模様が見られる。
- 「中川裕文ひょうたん展」(2.13~2.17) 全日本空手会副会長である中川さんの額装展。1メートルを超す「大物」額装が林立する様子は圧巻。
- 「版画展—くらしの中の器たち展」(2.13~2.17) 宮崎市楊(あおき)地区で版画を開く野中敏久さん。晋段使いの器の中に聖者の顔や鳩など、聖書のモチーフがさりげなく使われる。
- 「ポットとカップ 松竹洗器作陶展」(2.13~2.17) 菊池市で菊池窯「陶房まつたけ」を開く松竹さん。幅広い色のバリエーションが魅力。
- 「熊本の伝統工芸品展示会」(2.19~2.24) 陶磁器、玩具、木・竹・金属工芸品など熊本の伝統工芸品が一堂に集った。
- 「家具工房木里呼 漆工房一学 二人展」(2.19~2.24)
- 「よしえ工陶作陶展」(2.19~2.24)
- 「丸屋焼香の模様展」(2.26~3.3)は、約5000点という量に圧倒される。磁器・陶器・オブジェなど、豊富な種類を楽しめる。(A-S)
- 「第11回ステンドグラス教室作品展」(2.26~3.3)
- 「茶の湯道具と土風炉展」(2.26~3.3)

熊本岩田屋六階美術画廊

熊本市桜町3-22 ☎322-1111

- 「かごしまの草木染 越岡興・千恵子展」(2.5~2.11)
- 「子供達の四季 人形作家小島康彦展」(2.12~2.18) 小島さんは博多人形一筋45年の大ベテラン。博

多人形は「美人もの」「能・歌舞伎もの」「風俗もの」「節もの」などの種類があるが、今回は「童もの」中心。ふとした間に見せる子供の微妙な仕草や表情は、描写ではなく小島さんが練り上げたイメージの結晶だそう。中間色を基調とした柔らかな色合いにも、小島さんの人形の特徴があらわれる。従来の顔料だけでなく岩絵の具を使用することで、大量生産品にはない独特の上品な雰囲気が際出されていた。(A-S)

- 「洋画小品展」(2.19~2.25)
- 「13代小石原焼 桐原二郎・祥江作陶展」(2.26~3.4)

ピーエス オランジュリ

熊本市中唐人町 ☎356-2201

- 「横山博之展」(1.13~3月末)は、室内気候を提案するスペースでの作品展示。横山さんのテンペラ画、床のシリーズなどの大作を、ゆったりとした空間で味わうことができた。(Y-H)



横山博之さんの作品「対話」

熊本県立美術館本館・分館

熊本市千歳城町2-18 ☎351-8411

- 「第四回玄泉全国書道展」(2.5~2.11) 玄泉書道会(蒲川卓徑会長)が発行する読書雑誌「玄泉」の購読者を対象とした公募展の導入・入賞者とその指導陣、約270名の展覧会である。指導陣の力作は線条の練度が高く流石に見ごたえがある。ただ、もう少し各人の個性が見えればもっと楽しい。(T-M)
- 「KAZE2002」(2.5~2.11)は大森キミ子さんに学ぶ方々の12回目の作品展。天秤を丁寧に描いた春木尚実さん、力強いひまわりを描いた高濱悟さんの作品が印象的であった。(Y-H)
- 「銀光会13人展」(2.13~2.17)
- 「第14回開工美術展」(2.19~2.24)では、同窓生、在校生による作品展。長く担ってきた方々の、それぞれの制作への思いが感じられた。
- 「第21回尚絅大学書道コース卒業制作展」(2.19~2.24)卒業コース16人が、古典の墨書と創作を、軸や額等で展示。幅5.6mの大作から刻印の模刻まで、書風、書体とも多彩である。高当文字や唐廷漢簡、かなの「元永本古今集」等、実物大に忠実にコピーされている。学生らしく、まじめに努力したあとがよくわかり、洗練とした作品群には好感がもてる。(S-K)
- 「CAN-TORII SAIKO トールペインティング展」(2.19~2.24)では、同じ規格の小さなプレートが、それぞれ個性豊かに彩色されていて楽しい。
- 「熊本デザイン専門学校第7回卒業制作展」(2.26~3.3)は、ファッションビジネスコースのオリジナルブランド「グリッター」のグループ制作など、全般にわたり、独自のものを生み出そうという若いエネルギーが感じられた。
- 「第一回熊日本国書道教室作品展」(2.26~3.3)は西幸川さんに学ぶ48名の方々の作品展。
- 「第12回手でもる造形展」(2.19~3.3)は、美術教師を中心とした作家のほか、県立高、専門学校、生徒さんの作品も展示された。オープニング時は、普段、鑑賞の機会が少ない県立盲学校の生徒さん達で賑わいを見せていた。(Y-H)

ギャラリーレストラン芳文

熊本市南高江5-7-75 ☎311-3344

- 「桜梅桃李水画展」(2.12~2.20)は中井兼月さんの個展で、来訪者にも体験する機会を提供していた。(Y-H)

鶴屋百貨店

熊本市手取本町6-1 ☎356-2111

- 「世界の有名作家絵画大パザール」(1.30~2.5)
- 「2001日本の現代版画美術賞受賞作家展」(2.6~2.12)
- 「松山春秋展」(2.13~2.19)では、冬鳥など身近な生活を優しく見つめた作品であった。(Y-H)
- 「茶の湯道具西道展」(2.27~3.4)

アートルーム イケオ

熊本市新市街6-6 ☎324-1414

- 「プリキ屋の娘 彫金の世界 ててんご展」(2.13~2.18) プリキ屋の父を持つ山下信子さん、悦子さん姉妹は、金銀が父親の妙なる技術によって自在にたちつくられていく様子をながめて育ったという。彼女たちは、「ててんご(手遊びの歌)しようか」と思いたち、繊細なフォルムのアクセサリや、人の着用を許さないドレス、はたまたやわらかい動きをみせる髪や細い葉の花々をつくりあげた。金銀で出来た花といえば仏花しかみたことがなかったが、有機的で繊細で優雅なプリキの花に驚かされた。次回からの展覧が楽しみである。(H-T)



「ててんご展」作家の山下信子さん

画廊喫茶ぶらうん

熊本市花畑12-16 ☎352-8855

- 「四季を彩るはがき絵展」(2.9~3.2) 200点余りの絵手紙が壁を埋めていたが、そのなかで目を引いたのは、赤い色を使ったはがき絵。りんごやイチゴ、とうがらしやバラ、はがきサイズぎりぎりまで大きく描き、赤という色の力強さに惹かれていた様子だった。はがきという大きさから開放された作品も見てみたいものである。(H-T)

ボランティアスタッフを大募集しています。

①ホームギャラリースタッフ

美術情報の収集・管理、ポスターやチラシの発送、回書の手配など、美術館の業務全般にわたってお手伝いいたします。

②アートスタッフ

デザインを学んでいる人、学んでいた人、デザインの仕事の経験のある人。美術館オフィシャル印刷物をレイアウトしたり、カットを握ったりして実務をこなす方をお願いします。

③写真スタッフ

展覧会やイベントで記録写真を撮影していただきます。白黒のカメラで美術館の公式記録を...! カメラマンとして大活躍してください!

④手話通訳・点訳

ギャラリートーク、講演会などを手話通訳。また館内表示や印刷物を点訳。手話、点訳のできる方、美術館はあなたの力を必要としています。

⑤通訳

美術館には常時、海外からの作家やゲストが訪れます。作品制作やワークショップのお手伝い、観覧の案内など、通訳して下さる方を募集します。

⑥ホームステイ

世界のアーティストの滞在を受け入れて下さる方を募集します。家族として接していただければアーティストは大喜び。アーティストの訪問は、すばらしい家族の思い出となるでしょう。

熊本市現代美術館ボランティアスタッフ募集

●詳しくはチラシ兼登録用紙をご参照ください。ボランティア登録は、専用の登録用紙で受け付けます。

●チラシ兼登録用紙は市役所1階総合案内、市民交流サロン内ボランティア活動推進コーナー、岩田屋6階ボランティア活動推進コーナー、熊本市ボランティアセンター、各市民センターと総合支所に設置しております。

●連絡先

〒860-0845 熊本市上通町2-3
熊本市現代美術館 学芸課
tel 096-328-2589
fax 096-359-7892

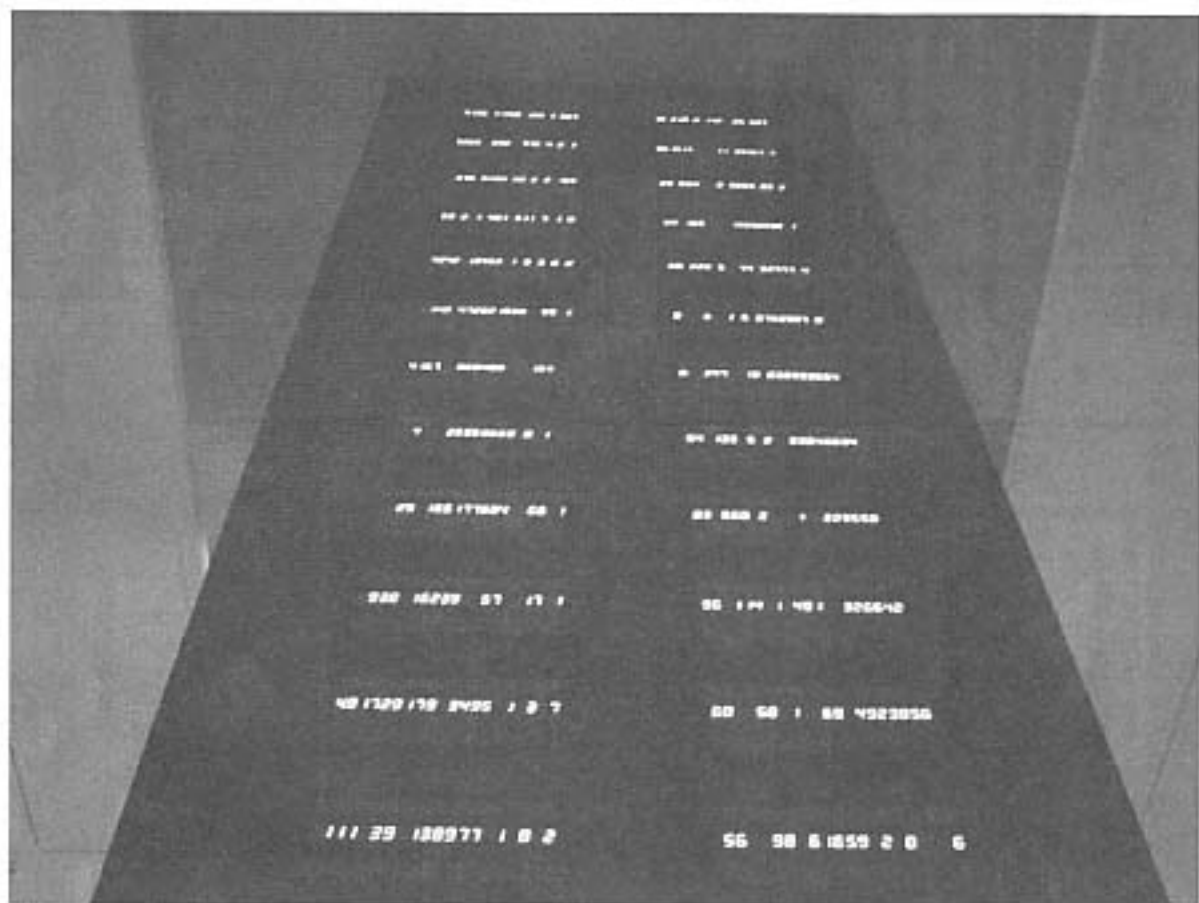
宮島達男さんが 熊本訪問

3月26日、日本を代表する現代美術作家、宮島達男さんが、熊本市現代美術館に建築と一体化した発光ダイオードによる作品を設置するために来熊しました。

●略歴/1957年、東京生まれ。東京芸術大学大学院修了。LED(発光ダイオード)のデジタルカウンターを用いた作品で知られる。1989年、ベネチア・ビエンナーレに日本代表として参加するなど、世界の主要な美術展で作品を発表し続けている。



設置中の作品の前の宮島さん(熊本ラーメンが舌に入りの様子でした。)



それぞれ異なるペースに設定されたカウンターが、様々な生の歴史を刻んでいきます。1から9までの数字がカウントされますが、その間の0を示すとき、永遠の死の時間が訪れます。そこから書きあふ生と死のリズムが、美術館の天と地をつなげ、宇宙の鼓動を生みだしています。

SUITOTTO* KUMAMOTO

連続インタビュー

NO.9

この連載では、熊本にお住まいで、様々なジャンルで活躍されている方々に、活動による熱い思いを語っていただきます。第9回は熊本バレエ界の要、伴征子さんに楽しいお話を聞きました。

—先生の元氣とバレエの出会いを教えてください。

伴:小さい頃からラジオやレコードの音楽に合わせて、イザドラ・ダンカンバリの踊りっぶり(笑)。うちは普通の家庭だったんですけど、両親が「好きこそもの上手なれ」と思ったんでしょうね、習わせてくれたんです。踊るのが大好きだったんですよ。この研究所の一期生として入所し、一門下生だった頃は、日々練習に励みながらも、「東京はいいな」「外国はいいな」と外の世界をうらやましく思ったときもありましたけど、1968年に戸田裕子先生に勧められて研究所代表に就任したとたん、教師としての自覚が芽生えて、「もう想像は言わん、熊本で出来ることば、なんでんすっ!」(笑)とすっかり心構えを変えました。

—熊本バレエ研究所は、2000年に創立50周年を迎えたということですが、その感慨のようなものはありますか。

伴:熊本という場所に生まれたからには、この地で頑張ろうと思ってやってきました。現在350人ほどの生徒がいます。そして研究所で育った門下生たちが、イギリス、中国、ロシア、ドイツ、オーストラリア、カナダ等に留学して、その後で国際交流がどんどん広がっています。とても嬉しいことです。帰ってきて愚問をこぼす生徒には「踊りぢゃあ、と言うのなら、頑張らなっせ!」って励まして、尻をたたくんです(笑)。でも今度はもう一度、彼らに熊本を活動の場として成長して欲しいですね。

—バレエを学ぶ若い人たちと接して感じることは何でしょうか。

伴:いまの若い人は「規格」というものにこだわりすぎているような気がします。私はダンサーとして何か輝くもの、個性やテクニックを持っていれば、道はどんどん開けると思っています。もちろんバレエは、バレエに適した体の条件が求められてはいますが、生まれもった体型というものもありますし、それ以上に大切なことは、ハートがこもった豊かな表現が出来るかどうかなんです。ディレクターはそれを大事にすくい上げるんです。私自身も、良いキャラクターを持つダンサーがいれば、その子のための作話を考えたくります。それと、「ただ踊っていれば至せ」って、自分の事ばかり考えるのではな



くて、熊本の観客の方々が、幼少の頃からの成長の様子を知ってくださっているという幸せを、もっと実感して欲しいなと思っています。

—振り付けに、他のジャンルの動きを取り入れることもありますか。

伴:昔は、海外公演向けに、歌舞伎の「見景」とか武術の「型」を取り入れられていたようですね。「バレエは目で見る音楽」と言われていますが、私はむしろ、いろんな音楽に触発され、バレエに突進していく動きを極めていきたいですね。バレエの体をつくる基礎訓練というのは難しいものですが、それをつらいと思わない、あるいは苦にならない、むしろ喜びにしようほどのめでたい人(笑)が生き残るのがこの世界と思っています。体を自由に開放するための訓練が、逆にダンサーの動きや精神を縛りかねないとしたら実は大問題なのです。もちろん、船黒舞踏もスーパー歌舞伎も大好きで、船黒舞踏から発する「踊りたい!」っていう踊り手のエネルギーの強さ、融くとも限を引きつける迫力、それにスーパー歌舞伎の「そこまで泣かせるの!」っていうサービス精神は、ミスターで楽しみながらも、見習わなくてはと感じます(笑)。

—今後のプランについてお聞かせ願えますか。

伴:1975年から「くるみ割り人形」全幕公演を始めて、昨年で50ステージを超えました。6月には「くるみ割り人形」番外公演を考えています。劇場公演は、セット、スタッフ、観客の力によるコラボレーションなんです。応援して下さる方々には本当に深く感謝しております。でも、たとえ条件の整った劇場じゃなくても、踊ればそこが「舞台」になる。そういう根元的な姿勢が、これから更に大事になると思います。私だってまた踊りたいですね(笑)、上手ですよ。オデットはもう出来ませんけど(笑)。バレエは若者の芸術です。「バレエは何歳まで踊れるんですか?」ってよく聞かれますけど、踊りたいというものは何歳になっても出来ると思います。踊りたいのならば、まず自己を開放して情熱のありつたけをぶちまけるほどのエネルギーで見てくれている方々に辿り続けてほしいですね。

—今度はぜひ現代美術館で踊ってください。ありがとうございました。

(3月25日、於:熊本バレエ研究所、聞き手:南真 宏)

熊本バレエ研究所代表
伴 征子 さん
Seiko Ban

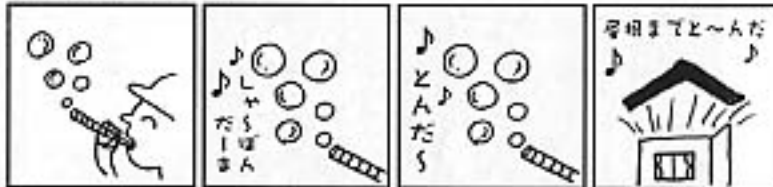
●略歴/熊本バレエ研究所代表。
1976年熊本県文化財団芸術新人賞受賞。

今月の展覧会

- ニューヨーク ホイットニー美術館 「ホイットニー・ビエンナーレ」(~5.26)
- ロンドン テート・モダン 「Eija-Liisa Ahtila展」(4.30~7.28)
- パリ ボンビトゥーセンター 「シュルレアリスト・レポリューション」(3.6~6.24)
- ベルリン クッゲンハイム美術館 「ビル・ヴィオラ」展(~5.5)
- ビルバオ クッゲンハイム美術館 「ルイズ・ブルジョア」展 (~4.21)
- 福岡アジア美術館 「第2回福岡アジア美術トリエンナーレ2002」(3.21~6.23)
- 北九州市立美術館 「北九州芸術祭『総合美術展』」(4.1~4.30)
- 坂本茜三美術館 「坂本茜三パリに行く」(~4.21)
- 鹿児島市立美術館 「世界遺産 ポンペイ展」(4.16~5.29)
- 大分市美術館 「シアトル美術館からの里帰り-近代の京都画壇展」(4.6-5.6)

今月の4コママンガ

しゃぼん玉の巻



イラストレーション: SO-CIAN

編集後記

イベント第9弾として、5月20日(月)の夜6時30分より、国際交流会館で「ジュリア・ポイド講演会」を開催いたします。ポイドさんは前駐日英国大使夫人として、日本滞在中、ハンナ・リアルの足跡を研究し、本を出版するなど、所本とは縁の深い方で、また結婚するまではロンドンのビクトリア・アンド・アルバート美術館で働いていた美術の専門家でもあります。今回は所本市現代美術館のために、わざわざロンドンからのケンブリッジからお越しいただけることになりました。演題は「Sushi and Chips」で、イギリスの中の日本文化の影響について語っていただきます。聴講希望の方は美術館まで往復はがきでお申し込みください。締め切りは5月13日(月)。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

(学芸課長 南島 宏)

寄稿者紹介

兼城 昌山 (S.KI)

Shozan Kaneshimo

私は「書」を50年一心に書いてきた。でも、作品は先人のまわでなく、自分の「顔」があるか？を考えて日々を磨めている。

森山 淡草 (T.M)

Tanso Moriyama

古代漢字の新解釈で知られる京都の古文字学者・白川静先生、89歳で、60年の研究成果を問う41色の著作集を発刊計画。93歳の完成が楽しみだと言う。著作内容も人間と迫力満点。

田代 晃三 (K.T)

Kozo Tashiro

規範を子に入れるのは難しい。しかし作家は規範に抗っていい作品を作るわけでもない。

学芸員紹介

本田 代志子 (S.H)

美術館へ移り、同僚仲間も本音化。多くの方の期待の目が届かになります。

蔵座 江美 (E.J)

草木の緑が眼に眩しい季節になりました。思いっきり深呼吸したくなります。

金澤 韻 (K.K)

医学生の友人と話す。想えている関心意識が同じ。医療も美術も一つの目的に向けられているんですね。

坂本 顕子 (K.S)

空閑きの季節。ドライブがてら窓元めぐりに出かけた。今日この頃です。

富澤 治子 (K.H)

つつじの鮮やかな花の色、あの色を見ると幼い頃のピクニックを思い出します。

発行元/ART KISS LETTER アートキッスレター Vol.10 2002年4月15日発行 〇無料〇

編集人/田中 亜人

編集長/南島 宏 担当/富澤 治子

印刷/熊本県印刷センター協業組合 デザイン/松永 社デザイン事務所

発行/熊本県現代美術館 〒860-0845 熊本市上通2-3

TEL.096-328-2589 FAX.096-359-7892